



ワーカーズコープ連合会では、今年も「協同労働・よい仕事研究交流全国集会2024」を3月2日～3日に開催しました。今回のテーマを「よい仕事とは何か～あきらめ、おまかせをこえて、だれもが当事者に」とし、初日全体会では記念講演を株式会社いきがいクリエーション取締役の親泊朝光さんにお話いただき、その後3つのセッションを行いました。2日目は20分散会に分かれて、協同総研を通じて38名の方にコメントーターをお願いし、実践報告をもとに深めました。初日は410のアクセス、2日目は363アクセスがありました。

親泊さんの講演に対しては、参加者の多くの方から「心理的安全性」を職場でつくることへの努力、「働きやすさ」「働きがいある仕事」を追求するなかで、離職率が大幅に下がり、利用者数も増えていった内容に共感する感想が寄せられました。協同労働・よい仕事を通して、どのように同様に追求できるのかを、自分たちに引き付けて考えたいという声が多く見られました。

3つのセッションでは、それぞれ2つずつの事例を基にファシリテーターに深めてもらいました。第1セッションでは、新しく労協や協同労働の現場を立ち上げた人たちは、協同労働だからこそ自分たちでめざすケア(よい仕事)を追求できると期待をもって立ち上げたことと、一方で理念に実践をどのように近づけるかを悩みながら、7つの原則をもとに進めるなど、自分たちの原点を思い出し、原則に立ち返り進める

必要があることに気付かされました。

第2セッションでは、若者たちが学生時代から協同労働に触れることで、自分たちで企画し実行する楽しさを実感し、ワーカーズコープに就職し、自分たちで企画提案をする姿に頼もしく感じたり、気候環境を考えた電気の自家発電など循環型事業所の取り組みに共感して、新しい人たちが入ってくる流れなどを学びました。

第3セッションでは、草刈り業務から、自らもレンコンづくりなど野菜づくりに挑戦する姿や、就労困難な仲間と機械化も含めて取り組む姿を通じて、よい仕事がどの分野でも多様な形で追求できることを伝えてくれました。また造園業を多様なスペシャリストとともに労働者協同組合を立ち上げ、従来の造園業とは違った、市場競争ではない、自然循環型の造園づくりに挑戦する想いの報告に、協同労働だからこそ人や環境を尊重する仕事ができ、そのような仕事に共感する地域づくりに取り組むことの必要性を感じました。

2日目の分散会でも、多様な業種で、多様な協同労働・よい仕事に挑戦している報告がなされ、業種の数だけ、現場の数だけ、多様な協同労働・よい仕事があり、その探求を継続することが大切であることを、コメントーターの方々のコメントでも評価をいただき、励まされた集会でありました。

この気づきをもとに、日々の協同労働・よい仕事を深めていきたいと思います。